

都市・建築学専攻

1. 都市・建築学専攻は次の基幹講座及び協力講座で構成されている。〔() は分野数〕

① 基幹講座

都市・建築デザイン学 (5), 都市・建築計画学 (8), サステナブル空間構成学 (5),
建築構造工学 (8)

※ 教員名欄にある(兼)の標記は兼任の分野を表す。

2. 都市・建築学専攻における研究・教育の内容は広範囲にわたるので、他学科・系あるいは他学部からの受験者は、志望する研究分野について十分理解を深めておくことが望ましく、予め当専攻に相談されたい。

講座又は研究所等 (専門分野又は研究部門等)	教 員 名	研 究 テ ー マ
都市・建築デザイン学講座 (都 市 デ ザ イ ン 学)	教 授 石田 壽一*	「縮小・成熟」というパラダイムに対して、「都市や地域の最適な環境、さらにはその構築の基礎となる様々な原理の枠組みがどのように変わっていくのか」を探り、来たるべき時代に備える必要がある。本分野では、次世代社会モデルにおける都市や地域、建築の在り方を研究し、提案していくことを目指している。
都市・建築デザイン学講座 (建 築 デ ザ イ ン 学)	教授(兼) 五十嵐 太郎 助教(兼) 市川 絃司	時代を変えていく、形態、空間構成、機能、構造を検討しつつ、現代美術や映画などの諸分野との関係も視野に入れながら、新しい建築デザインについて研究する。またコンペを通じた建築の潮流も分析の対象としていく。
都市・建築デザイン学講座 (都 市 ・ 建 築 理 論)	教 授 五十嵐 太郎 助 教 市川 絃司	デザインの動向に大きな影響を及ぼした建築理論や都市論を歴史的な視点から分析し、新しい時代を切り開く言説のあり方を考察する。また展覧会や雑誌などのメディアを通じた建築の表現も実践的に研究を行う。
都市・建築デザイン学講座 (IT コミュニケーションデザイン学)	准教授 本江 正茂 助 教 柳井 良文	現代において、様々な情報技術を用いたコミュニケーションの拡大によって可能となる、都市や建築の新しい使い方をデザインし、人々がもてる力を存分に発揮しあえる環境を構想し、実装することを目指している。
都市・建築デザイン学講座 (プロジェクトデザイン学)	教授(兼) 石田 壽一*	現代の都市・建築のデザインは、従来の単なるハードウェアを扱う設計作業を超えて、様々な技術を組み合わせ、一つのプロジェクトとして社会の中に位置づける最適化技術という様相を呈し始めている。本分野では、エネルギー問題など、都市や建築を巡る諸技術を統合的に捉え、生活環境をデザインする人材の育成を目指している。
都市・ 建築計画学講座 (空 間 文 化 史 学)	准教授 野村 俊一	私たちがとりまく都市・建築は、どのようにつくられ、使われ、意味を帯びてきたのか。本研究室では、古代から現代以前における日本・東洋建築史と、これら建築を保存・再生するための文化財学を研究している。そのさい、建造物の意匠や技法、空間、構造、さらにはそれらをつくりだした理念や社会背景など、様々な視点から多角的に、かつ東アジアとの文化的対外交渉関係をふまえながら検討している。
都市・ 建築計画学講座 (建 築 世 界 遺 産 学)	准教授 飛ヶ谷 潤一郎	本分野では、現存遺構の調査と文献史料の読解に基づいて、イタリア・ルネサンスを中心とするユネスコの世界遺産レベルの建築・都市の歴史的研究を行っている。また国内外を問わず、文化財としては認知されにくい近代建築および産業遺産も対象とした歴史的研究に加えて保存修復研究にも広く取り組んでいる。

講座又は研究所等 (専門分野又は研究部門等)	教 員 名	研 究 テ ー マ
都市・建築計画学講座 (福祉建築学)	准教授 佃 悠	格差や高齢化などの危機を抱える現代社会において、最低限の生活を保証するために、住まい、および教育、文化、医療、福祉等の公共福祉建築について、人々の行為/生活と建築/地域空間との相互作用に関する研究/実践から、計画の基盤となる理論構築を目指している。
都市・建築計画学講座 (建築空間学)	教 授 小野田 泰明	人間と空間の基本的関係を解明するために、さまざまな調査や思考実験等を展開する。さらにはそれらを通じ、現代社会が時代に対応する上で必要とする建築型の開発や検証を行っていく。実践と理論の連結を目指す学際的学問領域である。
都市・建築計画学講座 (計画制度学)	教 授 姥浦 道生 助 教 荒木 笙子	持続可能な都市・地域の物的空間を形成するために必要な都市計画・土地利用計画に関して、その計画理論の構築、計画策定技術の開発、その実現のための制度設計やマネジメント手法の構築等に資する研究を、外国との比較も交えつつ行っている。
都市・建築計画学講座 (都市マネジメント学)	教 授 姥浦 道生 助 教 荒木 笙子	今後の人口減少と高齢化の進展を見据え、既存の住宅・社会資本ストックの有効活用方策や住宅地空間の維持・管理・再生・集約化手法の開発等を通じて、時代に即応した都市および居住地の構成・再編方法を研究している。
都市・建築計画学講座 災害科学国際研究所 (空間デザイン戦略)	教 授 岩田 司* 助 教 原田 栄二 (都市・建築デザイン学講座)	建築・都市・地域の空間の質は、空間そのものの質のみならず、災害や人口減少・少子超高齢社会等の多様な社会変革に対して自ら立ち向かう回復力を持つことが必要である。そのためにはその地域の資源(人・物・文化)の活用や、気候風土に基づいた伝統的な技術を用いることが求められる。空間デザイン戦略研究分野では、地域の自然や伝統文化と調和し、地域自身で再生、持続可能な力強い空間デザイン手法の研究を行っている。
都市・建築計画学講座 災害科学国際研究所 (国際防災戦略)	教 授 村尾 修	世界中の地域・都市を対象とし、国内外で発生した災害による被災地の復興を継続的にモニタリングすることにより、将来に資する国際的な防災・復興戦略の策定を目指している。具体的には、都市の脆弱性評価、災害に対応した都市・建築空間デザイン、建物被害関数の構築、都市復興アーカイブズ、津波による避難計画、地球温暖化による海面上昇の都市への影響などの研究に取り組んでいる。
サステナブル空間構成学講座 (地域環境計画学)	教 授 持田 灯 助 教 石田 泰之	各地域の地理的条件、気候、都市構造等の特徴を評価・分析し、これに立脚した環境計画を行うための研究を行っている。進行中のテーマは、1) 都市の風環境・熱空気環境の制御、2) 地域の環境ポテンシャルの定量化、3) CFDに基づく環境解析、4) ヒートアイランド対策、5) 都市空間の雪氷災害対策、等
サステナブル空間構成学講座 (サステナブル環境構成学)	准教授 小林 光	健康で快適な居住環境を極力少ない環境負荷で実現するための研究を行う。建築に於けるエネルギー消費と室内環境の調査分析、高効率な設備機器・制御について研究する。また、自然採光や熱利用等、オンサイトで適用できる自然利用手法について研究する。

講座又は研究所等 (専門分野又は研究部門等)	教 員 名	研 究 テ ー マ
サステナブル空間構成学講座 (居 住 環 境 設 計 学)	准教授 後藤 伴延	健康・快適、さらには知的生産性の高い建築環境の実現を目指して、室内外の物理環境に対する人間の反応（生理・心理・行動）について研究を行うとともに、これに基づく環境調整技術の開発や環境設計の方法論に関する研究を行う。
サステナブル空間構成学講座 (ライフサイクル工学)	准教授 西脇 智哉	持続可能な社会には、長く安全に使用できる建築が必要不可欠である。その実現には、新たな建築材料・構法の開発や、性能評価技術の確立、材料劣化メカニズムの解明などが求められる。本研究分野では、材料レベルから建築物全体のマルチスケールに亘り、主にセメント系材料を対象として、建築物の建設段階から維持管理・長寿命化までのライフサイクル全体の課題に取り組む。
サステナブル空間構成学講座 (リハビリテーション工学)	准教授(兼)西脇 智哉	建築は時間とともに性能が変化（多くの場合は低下）し、このこと自体は建設時に投入されたコストや技術水準に関わらず避けられない。このような性能低下に永続的に対応するため、材料自身が自律的に対処する自己修復材料や、建設当初から組み込むリユースシステムなど、革新的な建築材料・構法の開発研究に取り組む。
建 築 構 造 工 学 講 座 (構 造 安 全 シ ス テ ム 学)	教授(兼) 木村 祥裕	小規模構造物から大空間構造物に至るまで様々な構造物およびその部材の耐風性能評価および耐風設計手法の開発、台風・竜巻・ダウンバースト等による強風災害の予測と低減対策、地上風の予測手法の開発と強風被害低減への応用、など、風と都市・建築に関わる様々な開発研究を行っている。
建 築 構 造 工 学 講 座 (性 能 制 御 シ ス テ ム 学)	教 授 前田 匡樹 助 教 松本 直之	地震などの荷重・外力に対して安全・安心で快適かつサステナブルな建築構造物を実現するための性能評価法、設計法、また、新材料・新構法や構造システムに関する様々な研究開発を行っている。鉄筋コンクリート造を中心に国内外の地震災害や防災対策、リスク評価など都市全体の問題も扱う。また、CLT をはじめとする中大規模木造建築構造の開発にも取り組んでいる。
建 築 構 造 工 学 講 座 (適 応 設 計 工 学)	准教授 高橋 典之	都市災害に対する被害の低減を合理的に図る建築構造技術・耐震・耐津波設計法の研究開発を行っている。具体的には、都市における構造物および構造物群の耐震・耐（対）津波性能設計法および修復コスト最適化アセスメントに関する研究や、社会的に重要な建築ストック（例えば歴史的建造物など）の構造性能評価および最適補強法に関する研究を行っている。
建 築 構 造 工 学 講 座 (材 料 ・ 構 法 創 生 学)	教 授 木村 祥裕 助 教 鈴木 敦詞	構造物(特に、鋼構造)の長寿命化と環境保全、耐震性能の向上を目指し、革新的な構造材料や柱・梁接合工法を用いた新しい構工法の開発、設計法の提案として、例えば構造物の倒壊を防ぐための柱脚機構の開発と設計法の提案や、エネルギー吸収性能に優れた制振構造及び大空間構造の合理的な設計法の開発・研究を行っている。

講座又は研究所等 (専門分野又は研究部門等)	教員名	研究テーマ
建築構造工学講座 災害科学国際研究所 (地震工学研究分野 (大野研究室))	准教授 大野 晋	地域強震観測網に基づく地震ハザード・地盤震動研究、長期構造モニタリングを用いた構造物-地盤系の地震応答研究を実施している。これらの研究に、リアルタイム地震観測網などの最新の地震観測・情報伝達・機械学習技術を組み合わせることにより、早期地震警報、面的地震動・地震被害推定、建物構造ヘルスマニタリングなどの被害推定・災害低減技術について研究している。
建築構造工学講座 災害科学国際研究所 (地震工学研究分野 (五十子研究室))	教授 五十子 幸樹	長周期・長時間地震動や大振幅地震動から長周期構造物を守るための革新的免震システムの研究を行っている。長周期・長時間地震動および大振幅地震動に対して、既往の速度依存型流体ダンパーや、変位依存型履歴ダンパーが必ずしも有効でない場合がある。当研究分野では、「変位制御設計」という新しい設計概念を提唱し、それを実現するために、特に低振動数領域や大変形領域でも高いエネルギー吸収効果を確保するデバイスの開発を行っている。
建築構造工学講座 災害科学国際研究所 (防災教育実践学)	教授 佐藤 健	減災社会の構築が喫緊の課題となっている地域に対して、地域に根差した減災研究とその実践を行っている。 具体的なテーマは、地域コミュニティの防災性能の評価手法の開発と応用、地震災害時の負傷者発生予測の高精度化、防災教育モデルの開発と実践などである。都市工学、災害医学、安全教育学などの学際的な研究に取り組んでいる。
建築構造工学講座 災害科学国際研究所 (災害文化アーカイブ)	准教授 柴山 明寛	大規模災害発生時に適切な減災行動が可能な地域社会を目指すために、過去の教訓や、災害発生時に得られるネット社会の情報、そして正確な地震観測や津波観測、構造モニタリングなどから得られる高度センシング情報などを融合した減災対応が可能な支援情報の研究を行っている。 具体的には、災害発生直後の被害推定に関する研究や災害対応のための意志決定支援情報の研究などを行っている。

備考1：より詳細なことを知りたい場合は、工学研究科人間・環境系教務担当〔TEL(022)795-7489〕に照会のこと。

備考2：* 2023年3月にて定年退職予定(2023年4月に後任教員着任予定)。